

「未来を拓く探究的な学び」～総合的な学習の時間～

子どもたちの「なぜ?」「もっと!」で未来に生きる力へ

VUCAの時代を生きるこどもたち

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や環境は急速に変化しており、予測困難な時代となっている。このような時代に子どもたちは、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、自らの人生を切り拓いていく力が求められている。

総合的な学習の時間から「探究的な学び」を充実

総合的な学習の時間で、地域や社会、身近な社会から課題を発見し、自分事の課題として捉え、情報を収集・判断・選択・整理し、表現・発信する探究プロセスを繰り返す「探究的な学び」を充実させていくことで、こどもが前向きに課題に向かう姿、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。

磐田市が目指すこどもの姿

夢中になって学ぶ子

？問い合わせる

一つの答えに満足せず

「なぜ?」「もっと知りたい」と
より広く、深い問い合わせ続ける力

🔍 探り続ける

情報を収集、整理・分析し
粘り強く考え自分なりの納得のいく
結論を見つけ出す力

🤝 つながり続ける

様々な事象、他者、他教科、地域、
過去の自分などと関わり自分の学び
を深め、高め、広げる力

「探究的な学び」の磐田市の取組

◆探究的な学び研究会

探究的な学びの実現に向け、学習指導要領で育成する資質・能力とを関連付けて本市の目指す探究的な学びの具体を協議研究・協議し、市内小中学校へ提案を行う

研究委員には市内教員だけでなく、外部から大学教授、企業人を招聘し協議会に参加。

◆職員向けの研修会実施

市内32校の総合的な学習の時間担当者による研修会を行い、探究的な学びの全国の取組や専門的な知見を得る機会を提供

- ・上越教育大学 河野麻沙美准教授 (R 6)
- ・渋谷区教育委員会 柳田 俊 指導主事 (R 7)

◆デジタル教材の開発

子どもたちの1人1台端末で操作できるデジタル探究教材を制作し、市内のさまざまな場所へ行かなくても、デジタル3D空間を能動的に疑似体験できる教材

【例】旧見附学校、クリーンセンター
桶ヶ谷沼ビジャーセンター 等 12か所

成果 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙の結果より

◎「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」
R6 小 (79.9%) 中 (83.5%) → R7 小 (84.2%) 中 (85.1%)

◎「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」
R6 小 (60.3%) 中 (57.3%) → R7 小 (62.5%) 中 (59.2%)